

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 サメガレイ

学名 *Clidoderma asperrimum*

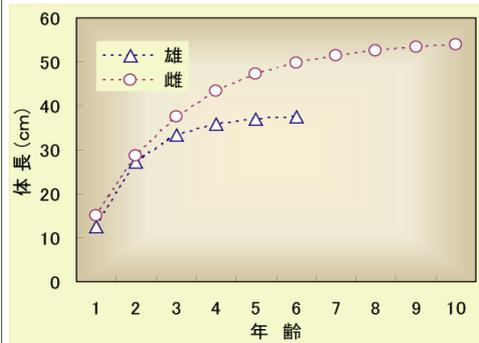
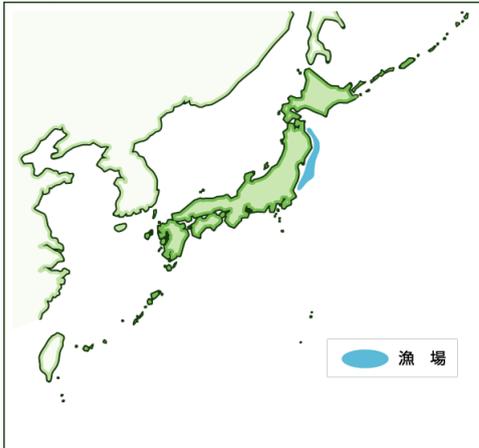
系群名 太平洋北部

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄9歳、雌13歳
 成熟開始年齢: 雄3歳、雌4歳
 産卵期・産卵場: 1~2月、水深600~900mの深海域
 索餌期・索餌場: 周年
 食性: クモヒトデ類
 捕食者: 不明

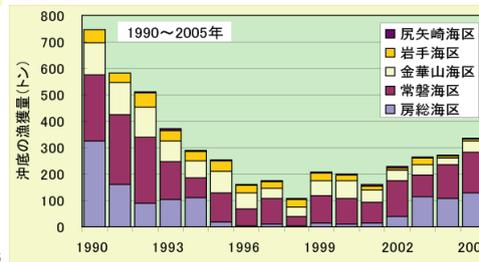
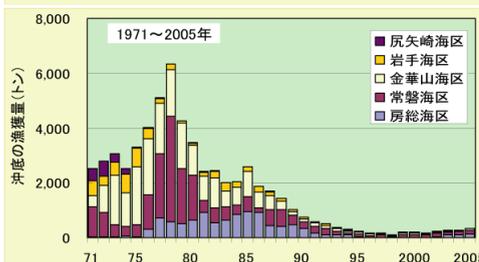
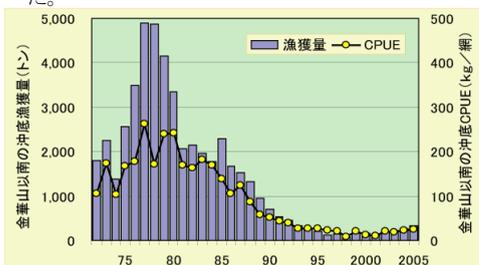


漁業の特徴

太平洋北部では、サメガレイは主に沖合底びき網漁業(沖底)により漁獲されており、他の漁業種類による漁獲量は極めて少ない。沖底の海別漁獲量をみると、金華山・常磐・房総海区(宮城~茨城県沖合)での漁獲量が大部分を占めている。また、サメガレイの漁獲は産卵期前後に集中しており、産卵親魚に対する漁獲圧が高いと推測されている。

漁獲の動向

沖底によるサメガレイの漁獲量は、1978年の6,329トンピークに減少を続け、1998年には最低水準の108トン記録した。その後、やや増加し、2005年の沖底による漁獲量は335トンとなっている。1997年以降は沖底以外の漁業種の漁獲量も把握できており、2006年(暫定値)の漁獲量は沖底で255トン、全漁業種類合計で260トンと前年より減少した。



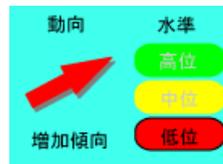
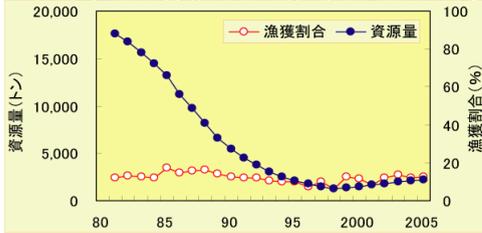
資源評価法

2002年度から資源評価対象種になったため、コホート解析のための年齢別漁獲尾数データは5年分しか得られていない。トロール調査による採集個体数は少なく、面積-密度法で資源量を推定することは不可能な状況にある。そのため、沖底の主要な漁場である金華山海区以南(金華山・常磐・房総海区)の漁獲量と有効努力量データを用い、プロダクションモデルにより資源評価を行った。

資源状態

現在の漁獲量は極めて少ない。CPUEの動向をみると、長期的には減少傾向にあり、現在の資源状態は低水準にあると考えられる。また、直近5年間のCPUEに増加傾向があると判断される。プロダクションモデルにより得られた金華山海区以南の資源量は、1981年の17,600トンから減少を続け、1998年には1,200トンと極めて低い水準となった。その

後、やや増加し、2005年には2,200トンとなっている。以上のことから、サメガレイの資源水準は低位にあり、資源動向は増加傾向と考えられる。

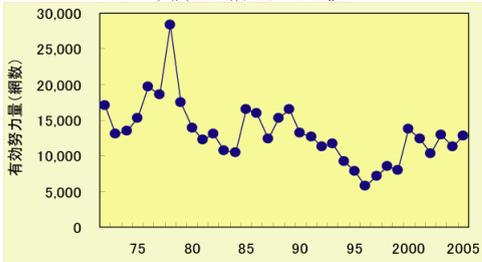


管理方策

プロダクションモデルを用いて資源量推定を行った結果、サメガレイの資源量は低水準で、近年は増加傾向と判断された。また、漁獲が産卵親魚に集中していることから、産卵親魚を保護して、その親魚量を増加させることが必要と考えられる。本報告では、親魚量を確保することを資源管理目標とし、FlimitとしてFmsyにBとBlimitの比率(B/Blimit)を乗じたものを用いた時の漁獲量をABCとした。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	300トン	Fmsy・B/Blimit	—	10%
ABCtarget	240トン	0.8Fmsy・B/Blimit	—	8%

- 漁獲割合はABC/資源重量
- ABCは10トン未満を四捨五入した値



資源評価のまとめ

- 資源は低水準にある
- 近年の資源は増加傾向にある
- 漁獲が産卵親魚に集中している

管理方策のまとめ

- 産卵親魚の確保が必要
- 産卵期前後の漁獲規制が必要
- サメガレイが産卵のために集群している場所での操業自粛が必要

資源評価は毎年更新されます。